

環境対策活動環境対策活動 EarthCare



8/14～16日にRISING SUN ROCK FESTIVAL 2015 in EZOにて環境対策活動を実施しました。「ごみの分別ナビゲート」など5つの活動を行いました。薪割り体験を提供する「みんなで薪割り」ブースでは初めてウッドキャンドルを実施。約400人の来場者がブースに足を運び、あたたかい灯りを楽しみました。また「北の収穫祭ワインカーニバルinおたる」「澄川パフォーマンス通り」「HTBイテオシ!まつり」「石狩さけまつり」「モエし沼芸術花火」にて環境対策活動を実施し、今年度の活動を終了しました。

福島県の子どもたちと自然体験活動 ふくしまキッズ北海道ボランティア



7/25～8/23の約1か月間ふくしまキッズ夏期林間学校2015が行われました。北海道では子どもが250名、ボランティアが84名、のべ614名が参加し、全道12地域13コースそれぞれのフィールドを生かした活動が展開されました。大沼コースでは、チャレンジプログラムとして大沼1周14kmを歩くというアクティブなプログラムも行われました。今回でふくしまキッズの活動は最後となりますが、北海道での自然体験活動へのボランティア参加を継続しています。

見える循環 RSRオーガニックファーム



今年もたくさんのじゃがいもが収穫できました。その量約5t! 昨年よりじゃがいもの作付け面積を増やしたおかげで、収穫量が大きく増えました。今回収穫したじゃがいもは、RSRの会場における「オーガニックじゃがいもの配布」の活動と藤女子大学「食と農のサークルAgrimeal(アグリミール)」との「石狩市場」共同出店に使用されました。今後、サポート会員のみならずみなさま向けに、私たちが収穫したじゃがいもが発送される予定です。

利用者による国立公園の管理 大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト



4年目となる今年は、6月～10月の間に、合計8回24日間の活動を行いました。参加者は50人のべ152人と過去最多人数となりました。参加したボランティアの中には、夏休みの北海道旅行の一部に組み込んだ道外の学生や、道内在学の留学生たちの姿も。また2週に1回行うミーティングは、メンバーの多い酪農学園大学で実施する回を設けたり、自然保護に関する勉強会を行うなど工夫しました。

都市の若者と森林をつなぐ プロジェクト「NINOMIYA」



今年度は、薪の製作・販売を増加させています。大学のインターンシップや企業研修の受け入れも行っており、2012年度からのボランティア受け入れ人数はのべ1300人を超えました。参加者からは「自然の中での活動が気持ち良かった」「木や森林への関心が高まった」などの声が上がっています。今後は冬に向けた薪の配達と、薪の売上の一部を利用した森林について学ぶ勉強会などを行っていく予定です。

サイクルシェアサービス ポロクル



ezorockが協力している「ミライサイクルさっぽろ実行委員会」主催の『SAPORO LOVE BICYCLE DAYS』(昨年までの自転車day)が9/19・20の2日間、さっぽろホコテンにて行われました。ポロクルのクルー中心としたボランティアが2日間でのべ69名参加し、イベントの運営を行いました。今年度は自転車免許教習所を中心に様々なブースを展開。参加者からは「自転車免許教習所のアイデアを他の地域でも活用したい」という嬉しい声も上がりました。



ボラ旅
北海道

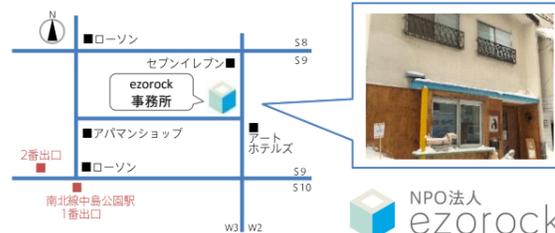
ボランティアツーリズムのその先へ

代表の小言

都市部の若者の役割

北海道の人口は約540万人。そのうち3分の1にあたる、約190万人が札幌にすんでいる。正確な数は把握し切れていないが、道内の大学生は少なくとも5万人以上、また大学の半数以上は札幌近郊に集中している。学生たちに出身地を聞いてみると北から南まで、様々だ。その一方で、出身地に眼を向けると、高校や大学が少ない、もしくはないため、10代後半から20代前半の青年層が少なく、まちづくりや環境保全の現場に影響が出てきている。このような背景から、都市部の若者がサービスマーケティングのような実践型教育プログラムを通して地元や農山村にて学んだり、貢献していくことは、更に人口減少社会に向かっていく北海道にとって、有効なものではないだろうか。北海道各地で、都市部の若者が活躍しながら成長していく姿が見られる日も、それほど遠くない気がしている。

草野 竹史



今月の写真
東川町、占冠村、下川町での活動の様子です。

